

農林水産基礎研究

「新規漁場開発と資源調査」

高橋芳明

目 的

調査船代船建造にあたって平成 28 年に行った調査内容の意見・要望として、釣り漁業の漁場開発や資源調査が挙げられた。これを受け、新調査船の新たな装備として海底地形探査装置や計量魚群探知機、釣獲漁具等を整備しており、海底地形の把握や魚群反応から今まで利用されていなかった漁場探索が可能となった。

また、主要な漁獲対象であった各魚種の水揚げ量は減少しており、県水産業の振興のためには今までと異なる魚種の利用が不可欠である。一方、本県沖合の深海にはアカムツ等の高級魚の存在も確認されており、新たな漁場の可能性があると考えられる。

このことから本事業では、未利用漁場及び未利用魚種の開発を行い、資源管理体制を構築するとともに漁業者に情報を発信することで漁業収入の向上に貢献することを目的とし、令和 4 年度は前年度に選定した調査定線において釣獲調査を実施した。

方 法

令和 3 年度に選定した江須崎沖と古座沖の調査定線において釣獲調査を行い（図 1）、釣獲した魚の種類、大きさ等を確認した。

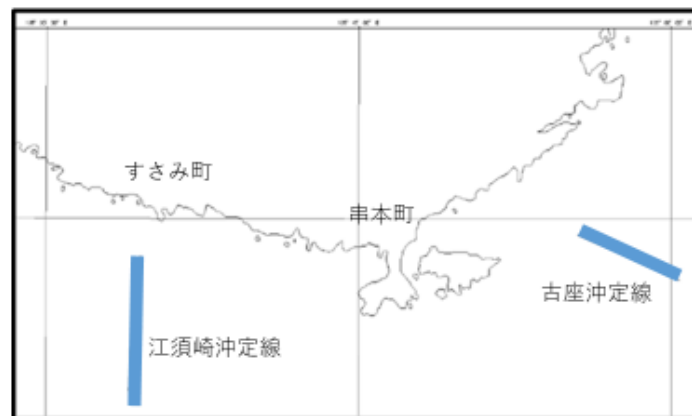


図 1 調査定線の位置図

結果及び考察

江須崎沖において 2 回（6 月 13 日，10 月 28 日），古座沖において 1 回（2 月 9 日），釣獲調査を実施した。6 月 13 日には N33.26 E135.33～N33.28 E135.36 にてゴマサバ 1 尾，ヒメ 4 尾，チカメキントキ 1 尾，10 月 28 日には N33.25 E135.40 付近にてユメカサゴ 1 尾，2 月 10 日には N33.29 E135.55～N33.58 E135.57 にてキダイ 14 尾，ブリ 1 尾，ヒメ 2 尾，イトヒキヒメ 1 尾，アブライカ 2 尾が漁獲された。測定結果は表 1 のとおりである。

今回の釣獲調査ではアカムツ等の高級魚は漁獲されなかったが、約 1kg のアブライカが漁獲されたことから、近年のスルメイカ漁獲が少ない中、イカ類の代替資源としての可能性が期待される。

表 1 釣獲調査による漁獲物の測定結果

調査定線	調査日	魚種	尾叉長 (mm)	体重 (g)	雌雄	生殖腺重量 (g)
江須崎沖	2022年6月13日	ゴマサバ	360	625.2	♀	0.60
		ヒメ	170	73.0	♂	0.17
			176	77.8	♂	0.08
			178	81.1	♀	0.20
			129	24.9	♂	0.04
		チカメキントキ	215	209.3	♀	0.26
	2022年10月28日	ユメカサゴ	220	166.4	♂	2.02
古座沖	2023年2月9日	キダイ	278	529.9	♂	0.89
			264	522.1	♂	1.39
			255	437.6	♂	0.80
			268	449.4	♂	1.10
			243	389.0	♂	0.34
			219	269.5	♂	0.46
			218	263.6	♂	0.46
			240	317.7	♂	0.21
			218	247.9	♂	0.35
			246	345.1	♂	0.81
			216	272.1	♂	0.39
			210	248.3	♂	0.36
			166	109.1	♀	0.31
			167	124.2	♀	0.16
		ブリ	613	2962.8	♀	20.02
		ヒメ	192	88.0		
			192	85.4		
		イトヒキヒメ	206	126.9		
		アブライカ	274 ※	1008.8		
			278 ※	996.5		

※ アブライカの計測部位は胴長